

ORIGINAL ACTIVITIES

市独自の取り組み

一人一人が抱える多様で複雑な背景を適切に把握し、状況に応じた学校内外での環境づくりや各種相談体制の充実を図りながら、子どもたちの自立と社会参加に向けた、きめ細かい個別支援が必要です。

UNTIL NOW

これまでの支援

- 長期欠席の未然防止・早期発見・早期対応を推進するため、小学校の保健室が2人体制になるよう養護教諭補助員を配置
- 教育支援センター「レインボーハウス」で、毎日スクールカウンセラーによる相談支援を実施
- スクールソーシャルワーカーによる子ども・保護者との面談や関係機関との調整
- 中学校に配置した心の教室相談員による長期欠席生徒などとの相談の実施
- 中学校に設置した校内教育支援室における自習の支援
- 長期欠席者教育支援会議での専門家との情報交換

FROM NOW

今年度の支援

- **スクールソーシャルワーカーを2人体制に増員**
- 中学校に設置している校内教育支援室に**校内教育支援室支援員を新たに配置**
- メタバース(3次元仮想空間)を利用した**オンラインでの支援**
- 校内フリースクールなど**新たな居場所づくり**の検討

CORRELATION DIAGRAM

市内の不登校支援の体系図



GLOSSARY

- **スクールカウンセラー** 心理の専門的知識と技術を持つ専門家
- **スクールソーシャルワーカー** 子どもが抱えているさまざまな問題の解決を図る専門家
- **養護教諭** 健康管理や保健の指導をする保健室の先生
- **心の教室相談員** 子どもが抱える悩みや困り事の相談に応じる人
- **校内教育支援室支援員** 校内教育支援室で子どもたちを見守る人

誰一人取り残さない 不登校支援

学校教育課 ☎(46)3332



「不登校」と聞くと皆さんはどんなイメージを持ちますか。

長期間学校に行けなくなる背景には、学校での友人関係を巡る問題だけでなく、家庭での親子の関わり方や、本人の無気力や不安など、原因は多様化・複雑化しています。学校に行けなくなることは、ある日突然、ささいなことをきっかけに誰にでも起こり得ます。

学校に行けない子どもたちが悪いということでは、決してありません。学校・家庭・地域などの周りの人が寄り添っていくことが大切です。

今号の特集では、長期欠席の子どもの現状や不登校支援に携わる方、またその取り組みについて紹介します。

※市では「不登校」を「長期欠席」と言い換えていますが、一般用語として「不登校支援」を使用しています。

CURRENT SITUATION

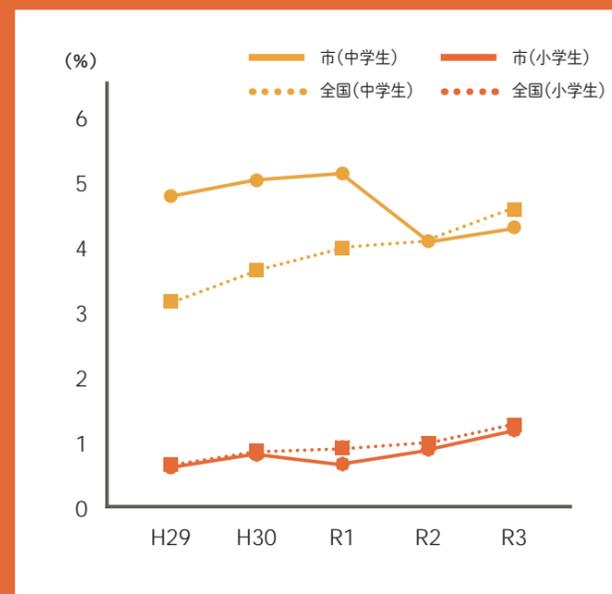
長期欠席している子どもの現状

長期欠席の子どもの割合は、全国的に増加傾向にあり、依然として高水準で推移しています。令和3年度には、全国の小・中学校で過去最高の24万人を超え、生徒指導上の緊急に対応すべき課題となっています。

市においても、小学校では年々増加傾向にあり、中学校では令和2年度にいったん減少したものの、令和3年度には再び増加している状況にあり、長期欠席の子どもへの支援が求められています。

調査の結果、市の子どもたちが学校に行けなくなる背景やきっかけは、小学校では「無気力・不安」、中学校では「いじめを除く友人関係を巡る問題」を理由とする件数が多くなっています。他にも、親子の関わり方などの家庭環境によるものや、生活リズムの乱れなどがあります。

長期欠席の子どもの割合の推移



令和4年度の市内の長期欠席の子どもに関する数値

小学生 **75人に1人** (1.3%) 中学生 **17人に1人** (5.9%)





元気で楽しく
過ごしてね!!

冊③正一



小学1年生の時、担任の先生にた
かれたことをきっかけに小・中学校の9
年間、学校に行けなくなりました。市
内在住の漫画家・棚園正一さん。自身の
経験を描いた作品が、全国で反響を呼
んでいます。「私の経験を一例に捉えて
もらい、大切な人の気持ちを伝えるきつ
けの一つになれたらうれしい」と漫画に
思いを込めます。学校に行けずに悩む
子どもには、少し落ち着いた時に手に
取ってもらい、「こういう道もあるんだ」
と心が楽になつてくれたらと話します。

棚園さんも学校に行けなかった当時、
今後どう生きていけばよいか悩みました。
学校に行っていない子どもが大人になつて
どう過ごしているのか分からず、「自分は
大人になる前にこの世から消えてしまっ
たんだ」と思っていたことも。そんな時、家
に訪問してくれたいた支援者のおかげで
『ドラゴンボール』の作者・鳥山明さんと
出会います。「学校に行つてなくても漫画
家になれるか」と尋ねると、「行つてな
くてもなれると思うけど、行つていたら
学園ものとかが描けるから便利かもね」
と鳥山さん。その言葉を聞いて「なんだ、
それだけなんだ」と心が楽になります。
しかし、その後も学校には行けないま
ま、中学を卒業した棚園さん。アニメの
専門学校を経て、定時制の高校に通うも
なじみず、また学校に行けなくなり、高
卒認定試験の合格を目指す予備校の専
門コースへと通います。「また学校に行け



ない自分になつてしまった」と落ち込んだ
気持ちで通い始めましたが、「そこには、
帰国子女もいれば、もつと先の勉強がし
たいからと学校に行かなくなった人もいま
した。学校に行けないといつても、いろ
いろな形があるんだ」と気付きます。そ
こで初めて多くの友達ができ、学生生活
を楽しんだ棚園さんは「鳥山先生と会っ
て、学校に行かなくても生きていてい
んだ」と思い、予備校に通つて、「こうい
う生き方もありなんだと思えました」と長
年のコンプレックスから解放されます。
「学校に行けなかった日々とそこで出
会った人々がいて、今の自分へとな
がついていきます」と話す棚園さん。いまさ
に学校に行けずに悩んでいる子どもた
ちに向けて、「こうならなくちゃ」「こ
うあるべきだ」と自分の理想を抱き、そ
の理想に追いつけない自分に劣等感や
ストレスを感じていることが多いと思
います。人生、何度でもやり直すこと
ができます。やり直せるタイミング・チャ
ンスは何度でもやってきます。気を楽
に、ゆったり自分のペースで過ごしてほ
しい」とエールを送ります。

PERSON IN CHARGE

担当者インタビュー

一人一人が生きやすい世の中に



学校に行けなくなる原因は一人一人異なり、それぞれが複雑な悩みを抱えています。市では、多職種が関わり、長期欠席の子どもの居場所づくりや、社会に出て自立するための機会を増やすための支援を行っています。

学校に行けなくなることは誰にでも起こりうること、決して悪いことではありません。市では、今年度から「不登校」を「長期欠席」と言い換えています。「不登校」という言葉の持つマイナスのイメージを変え、一人一人の思いに寄り添った、居場所づくりや支援を考えていきます。

学校教育課 近藤祐生



SPECIAL

特別インタビュー

不登校支援の黒子 全体を見ながらサポートしています

親子の関わり方について悩む保護者との相談を主に行っています。対処法を次々に出すのではなく、親子が力をつけられるようアドバイスしています。最終的には、スクールカウンセラーがいなくても、先生と保護者と生徒が協力して、問題解決していることが理想です。そのため全体を見ながら、周囲のサポートができるよう支援しています。

SOSを出せる相談機関や資源は、市内にたくさんあります。困り果てる前に相談してみようかな、確認してみようかなと、SOSを出せる場がありますので、ぜひ活用してください。そうすることで、保護者の皆さんも安心して過ごせまし、子どもの安定した育ちにつながると思います。



スクールカウンセラー 平間真由子さん

新たな居場所 安心して気持ち良く過ごしてほしい

教育支援センター「レインボーハウス」では、学校に行けなくなってしまった小・中学生が通所し、午前は勉強、午後はみんなでトランプやDVD鑑賞、スポーツなどを行っています。学年を超えた交流ができ、子どもたちにとって学校とは違う居場所になっています。さらに、毎日専門家によるカウンセリングができるのも強みです。日々の悩み事や困り事も気軽に相談できます。レインボーハウスには、「生活リズムをつくるため」「人との関わりをつくるため」など、目的を持って利用してもらえたらと思います。レインボーハウスで心のエネルギーをためて、ちょっと学校に行ってみようと思ってもらえたらうれしいです。



長期欠席者教育支援推進員 蟹江修さん

学校とのつなぎ役 自分らしく過ごせるよう支援します

長期欠席になっている生徒に中学校まで足を運んでもらい、相談を受けています。悩みは、外からでは分かりません。誰かに話して、助けをもらうことで心は少し楽になりますので、早めに助けを求めてください。保護者の皆さんは、学校にお子さんが通えなくなるとすごく悩まれると思います。学校に行けないことは、決して悪いことではありません。

初めて自分の心が整理できなくなったことを行動として表わしているの、一度向き合ってください。明るい未来は必ず訪れます。悲観せず、ぜひ相談してほしいです。若い世代の皆さんが、自分らしく過ごすことができるようになったらと思います。



心の教室相談員 時安利栄さん

SUPPORTERS

支援者インタビュー



子どもの絶対的な味方 一緒になって考え、寄り添う存在

長期欠席に悩む子どもや学校にうまく馴染めない子どもを対象に面談を行い、一緒に解決方法を考え、周りに働き掛けて環境の調整をしています。

ワーカーとしての目標は、子どもの自立と社会参加です。その子自身が自分らしく生きていけるよう、子どもの人権を第一に尊重して支援しています。今の子どもたちが抱えている悩みは複雑化しているので、学校の中では解決が難しくなっています。そこで、福祉的な視点を持つワーカーが介入することで、解決方法の幅が広がります。子どもや保護者、先生にとって、一緒に考えてくれる存在がいて、助けてもらえる場所があると知ってもらいたいです。

スクールソーシャルワーカー
山田誠さん
丹羽弘菜さん



いつもそこにいる人

子どもたちのそばで見守ります

登校できるけど教室に入ることが難しい生徒や、一日の授業全てを教室で受けられず、一時的に気分を変えて学習したいという生徒が利用する校内教育支援室「ほっとルーム」で、毎日子どもたちを見守っています。

大人でも月曜日は仕事に行きたくないと思うことがありますし、知らない人ばかりのところは不安だと思います。そのときに知っている人がそばにいて少し安心できると思うので、身近な存在として、「ほっとルーム」で見守っています。学校には、たくさんの支援者がいます。何か小さなことでも困り事や悩み事があればいつでも話してください。

校内教育支援室支援員
宮田晴子さん

